

# 大学院修士課程 1 年生西浦聡子さんが学生奨励賞を受賞

## ～第 30 回医療情報学連合大会～

平成 22 年 11 月 19 日（金）～21 日（日）、静岡県浜松市で開催されました第 30 回医療情報学連合大会（※）において健康政策医学、大学院修士課程 1 年生 西浦聡子さんが学生奨励賞を受賞しました。

西浦さんは附属病院で看護師長として勤務しながら、平成 22 年 4 月に大学院修士課程に社会人入学し、大学院生として勉強しています。

受賞しました発表内容は下記のとおりです。

### 演題

無菌治療室増床におけるコスト試算：7 対 1 看護導入によるコスト増に関する検討

### 内容

2006 年の 7 対 1 入院基本料の導入後、7 対 1 看護を取得する病院が年々増加している。7 対 1 看護を導入した病院では入院基本料の差額による増収が見込まれるが、逆に人件費の増加による減収の可能性もあり、病院によってはこれまで以上に収益を上げる必要があると考えられる。このような病院では、新人やパート看護師への切り替えによる人件費削減も収益向上の方法ではあるが、高度医療を提供する病院においては経験豊富な看護師の確保が必須で、人件費増に見合った収入の確保が必要である。本研究は、600 床規模の自治体病院の血液内科病棟における一般病室（15 床）の無菌治療室への改修の収支を試算した。さらに、無菌治療室への改修による病院経営に対する影響を分析した。推計の結果、7 対 1 看護の導入によって減収となるが、無菌治療室管理加算によって大幅な増収が見込まれ、病院全体の収支を大きく改善すると推計された。無菌治療室への改修と高度医療が提供可能な看護師の確保は、積極的な重症患者の受け入れによる患者単価の上昇と病床稼働率の向上、在院日数の削減などから、結果的に病院の収益につながることを示唆された。

### 受賞者のコメント

今回、第 30 回医療情報学連合大会で「学生奨励賞」を受賞させていただきました。看護師長として、日々看護管理を行いながらいつも疑問に感じ、何とかならないかと思っていた内容で受賞させていただいたことは大変喜ばしく思っています。

この、無菌治療室の改修は病院経営に貢献するだけでなく、患者の治療環境を整える・スタッフの働く環境を整えるという看護サービスマネジメントにも影響を及ぼしていると思います。変化する医療界において看護管理者に求められる役割も変化してきています。組織・スタッフの育成・経営能力・サービスマネジメント・将来の予測といった内容です。それらを学び、病院・患者・スタッフに貢献したいと健康政策医学講座の門を叩きました。

なかなか、論文がまとめられず苦労もしましたが、今村知明教授、小川俊夫先生をはじめ正木看護部長、各部門の様々な方々にご指導を頂き、本研究をまとめることが出来ました。今回の受賞で、良い経験をさせていただき感謝いたします。今後もより精進していきたいと思っています。

(看護部 B 棟 8 階看護師長・健康政策医学講座修士院生：西浦聡子)

### 指導教員のコメント

西浦さんが研究している内容は病院の運営そのものです。7対1看護は、それだけでは将来的には不採算となります。しかしながら、病院として将来の運営や増収を考えるとこれの導入は不可欠であることを、健康政策医学大学院修士2年生の椛浦一君らが昨年発表し学会で注目を集めました。椛浦一君も当院ICUの現役看護師でありまして、大学院へ社会人入学し当講座で研究しています。この研究は、その継続研究です。西浦さんは、7対1看護導入の意義と病院機能の拡張、地域医療への貢献という3つの困難なテーマと調和させつつ、7対1看護で必要となる増収を図るという、通常ではとても両立できそうにないテーマを見事に解き明かしました。実際に奈良医大では西浦さんの考えた方策を具現化することになりました。

病院の運営は、通常の企業の運営と異なり、これ自身が高い専門性を必要とする「医療経営学」とでもいうべき新たな研究分野であると考えています。この研究には医学の知識と経営の知識、そして医療制度の知識が不可欠です。今回の論文作成で西浦さんはなみなみならぬ努力をしています。休日の真夜中に何度も顔を合わせました。その努力があつてこそこの受賞だと思いますし、西浦さんを取り巻く当講座の経営や医療制度の知識をもつ他の仲間たちの支援があつてこそこの受賞だと思います。多くの人たちの努力がこのような形で実ったことは大変喜ばしい限りです。(健康政策医学 今村)

### (※) 第30回医療情報学連合大会とは・・・

日本医療情報学会は、医療情報に関心を持つ全ての研究者及び実務担当者の学術交流の場として、昭和58年(1983年)設立されました。その前身は、1980年に東京で第3回世界医療情報学会(MEDINFO 80)が開催されたのを期に設立された「MEDINFO研究会」です。

日本医療情報学会は、年に2回の大きな学術集会【日本医療情報学会秋季大会(医療情報学連合大会)、日本医療情報学会春季大会(日本医療情報学会シンポジウム)】を開催する他、複数の研究会を傘下に持ち、活発な学術活動を行っております。会員は、医師のみならず、看護師、薬剤師、検査技師、事務担当者、病歴担当者、コンピュータ技術者等の多様な職種からなっており、非常に学際的な学会といえると思います。設立以来、国際医療情報学連盟(IMIA)に加盟する唯一の日本の学会として、国際的にも主導的役割を果たしてまいりました。

(日本医療情報学会ホームページより)